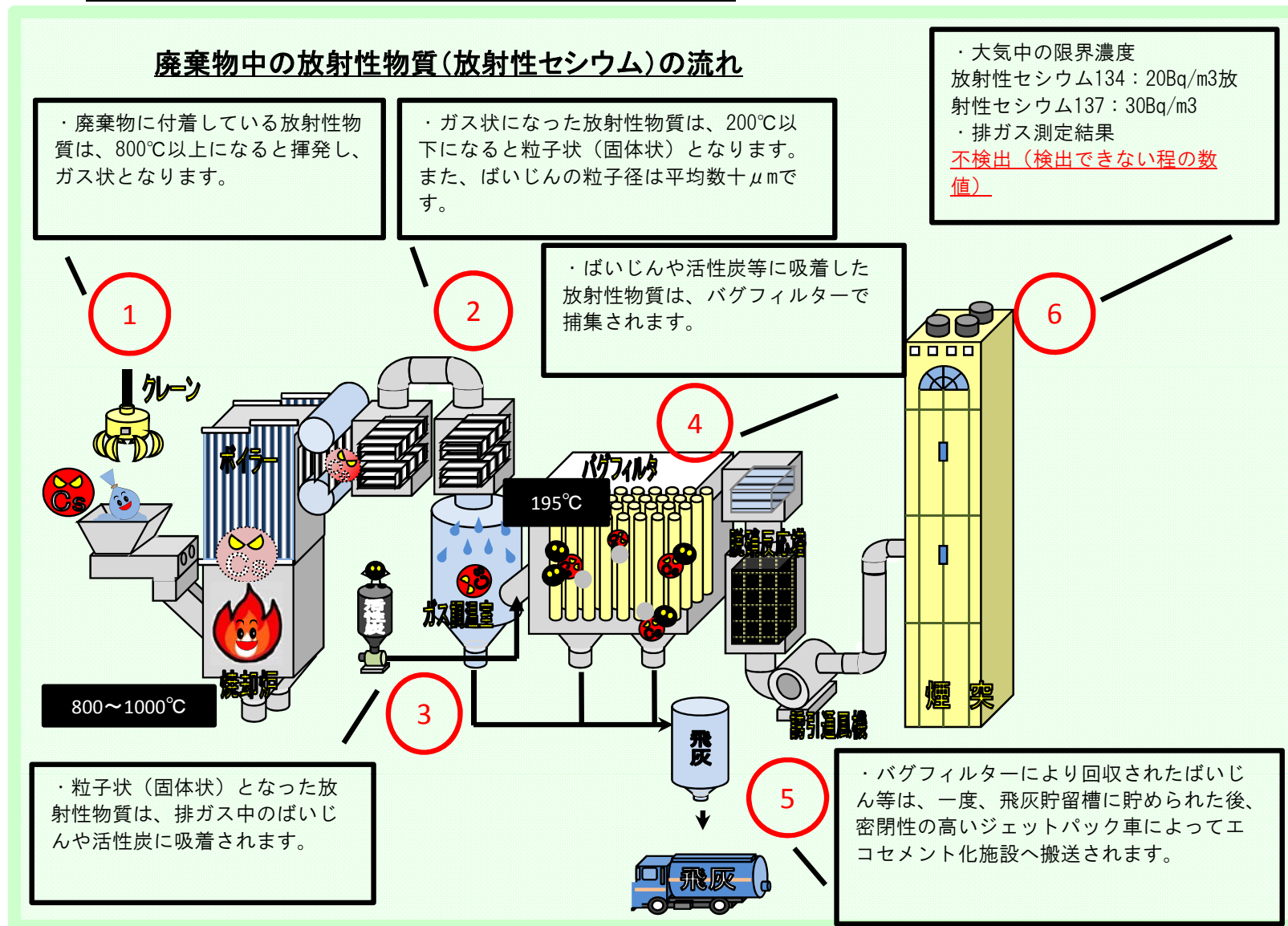


5. バグフィルターの安全性について（環境省の見解）



○放射性セシウムの流れ

- ① 廃棄物に付着している放射性物質は、焼却炉の温度が、800°C以上になると揮発し、ガス状となります。
- ② バグフィルターに到達する排ガス温度は200°Cの温度範囲であるため、固体（粒子状）となる。また、ばいじんの粒子径は平均数十μmです。
- ③ そのほとんどがダイオキシン類対策として吹き込まれている活性炭等に吸着されます。
- ④ これらは、他の有害物質（ダイオキシン類等）と同様に、バグフィルターという高性能フィルターを導入した集じん装置によりほぼ完全に捕集され、焼却施設から排出される事はありません。また、西多摩衛生組合では、空気清浄機等に使用されているHEPA（ヘパ）フィルターに匹敵する程の高性能フィルターを採用しています。
- ⑤ 捕集された飛灰や活性炭等については、密閉性に優れたジェットパック車を使用しており、搬出後においても大気環境中への影響はないと考えています。
- ⑥ 他の施設においても放射性物質が付着した廃棄物を焼却した焼却施設の煙突から放射性物質や放射能が放出されていない事も確認されています。このことから、放射性物質が付着した飛灰や活性炭等は、バグフィルターで捕集され煙突から放出されてることはないと判断しております。

○バグフィルターに吸着されたものの除去方法とバグフィルターの寿命について

・ 除去方法は、圧縮された空気をバグフィルターの内側から入れて払い落しをしています（パルスジェット）。また、ただ圧縮された空気を入れても払い落しきれないのでは？と思いますが、バグフィルターのろ布の素材をメンブレン（テフロンに似た性質）というものを使用する事により表面に付着、固着しづらい構造となっており、綺麗に払い落としが可能となります。HEPAフィルター並の高性能フィルターを採用しております。

・ バグフィルターの寿命については、5～7年とされています。

